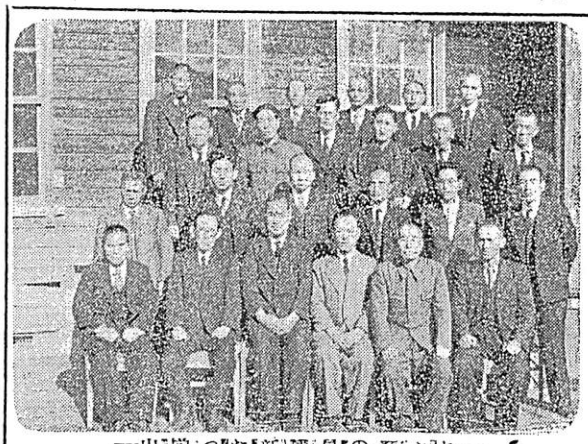
阿知須町廣報
阿知須町役場発行　山口県吉敷郡阿知須町　発行所　阿知須郵便局



新議員による初の町議会は旧ろう二十七日に招集されたが午前九時の定刻には全員出席し固苦しい本会議に移り、当日のやまである議長、副議長、各常任委員ならびに委員長の選出をはじめ議会規則、常任委員会條例改正案など諸問題が矢継ぎ早に協議され午後二時半初議会の幕を閉じた。

なお長老により議長には松崎徳彦氏、副議長には河村菊熊氏がそれぞれ満場一致により左の通り決定した。（○印は委員長を示す）

▼総務委員会
○中本　武一　今井安三郎
山本　豊一　中谷　大二
竹本　秋吉　吉田　智男
上野一成　中野郁左エ門

▼厚生委員会
○中谷　大二　山本　愚男
工藤　清実　叶谷　徳一
田辺　悦雄　河村　四一
山根　茂一　前村　金作

▼産業経済委員会
○山本　幸一　吉田　智男
工藤　清実　原田計之助
重永　武雄　中野郁左エ門
河村　四一　藤好　孫一

▼議会運営委員会
○竹本　秋吉　重永　武雄
四山　義殿　上野　一成
竹重　芳香　河村　金作
山本　忠男　田辺　悦雄

▼広報委員会
○今井安三郎　藤好　孫一
中本　武一　原田計之助
四山　義殿　茂一
竹重　芳香　叶谷　徳一

議長に松崎徳彦氏

副議長は河村菊熊氏に決定

なごやかな初町會

就任のことば

朗らかに・むつまじく

町長兼定好太郎

今回町長改選に伴い不肖私が立候補し皆様の絶大なる御支援の下に当選の栄を得ました事を退いより厚く御礼を申上げます。

顧みれば終戦以来早や六年を経た今日、再起日本のため占領軍の心からなる好意と國民のたゆまない努力によつて無事講和條約調印も終り、ようやく平和の基礎を築く事が出来たのであります。

当町に於きましても山口市との分離後、上記町村長をはじめ町民各位の熱烈なる郷土愛に燃られ新の大建設の歩を踏み出したのであります。

私もこの光榮の與えられた数々の議員に報いるため身を以て奉仕し大阿知須町の発展に寄與する覚悟であります。

活氣ある議會の運營へ……

議長松崎徳彦

新年お祭出とう御座います。

昨年の十二月五日の町議會議員選挙において不肖私共、町民の絶大なる御声援と御期待によりまして当選の栄を得たのであります。

が茲に光榮の至りに存ずると同時に責任の重大を感ずるもので御座います。旧臘二十七日初議會を招集されまして諸般の結果不肖議長の職をけがすことになりました。もとより浅学非才この職ではありませんが、この上は議員各位の御協力を申すに及ばず町民各位の御支援と御鞭撻によりまして当選の栄を担つたのでありますから

名産『かき、のり』の養殖
漁業組合の計畫

干拓の避場に附着した海苔にヒントを得て二カ年試作し、あらゆる辛酸をなめついに「日本一」の折紙をつけられた当町の「のり」の養殖に本格的に乗り出した阿知須漁業組合では昨秋以来日夜努力をつづけ、一カ月前より採集をはじめたが初冬の順調な気候で最初に予想された收穫高二百万円も時ならぬ最近の温暖にわざわいされて業者をまたもやピンチに追込んだ。しかし業者と努力に燃える從業者数十名は、ひるむことなく更に福岡町から所沼の權威者を招き養殖法につき貴重な実地教授を受け研究を重ねやがて明るい見通しもつき近く北九州、阪神方面へと販路も広く、どこにもおとらぬ立派な製品が大量に出荷されることだろう。

なお同組合では本年より「かき」の養殖にも着手し広島方面より種苗「种がき」を入手し着々と進められているが、干拓工事完成の暁には「のり」と共に自然繁殖の度をまし、かつ品質も改善されると当町發展のカギはここにあるものと將來に大きな期待がかけられている（写真は製水をもいとわぬ海苔の採集ぶり（上）と乾燥の場面）

ツ年は久ツの如く、年末熊恕の荒波を、完納めざして、まつしぐら

に、飛り切ろうではありませんか

〃學つて納税　躍進阿知須〃
阿中一年　中尾禎子さん作

資金が借れる
山をタンポに

新らしい山林法により一月一日から立木の伐採には許可が必要となり、そのため伐採がある程度制限されるようになつたので、政府では山を担保とし森林所有者へ三十万円まで融資することになり、その貸付利率は年四分、貸付期限は二十五カ年で償還は定期または一時払の方法がある、その他國林漁業資金融通法に基き造林、苗圃に必要な資金も融資されることになつているので詳細は森林業技術員または町役場産業課へ御問合せありたい。

理想的な家庭職
刺繍進営會　野村ミツ

阿知須町における社会事業的授産として現在刺繍作業が活発に行われております。これは主として勤労家庭の婦女子を対象とした貿易振興を計る家内工業で通産省、縣の奨励に基き、特に町当局の格別の御理解と御援助のもと昭和二十五月一月に芽生え同年四月宇部支部阿知須町刺繍進営会として発足し爾来各方面よりの御努力により現在百数十名の会員をようし、月々四・五万円の外貨を獲得し、微力ながら町發展のために寄與しております。

欧州、特にフランス、スイス等の諸國では國家的立場から小学校の教材としている程で技術的にも洗錬されており、藝術的で高級な作品が名譽を博し、百年にわたる伝統をもつだけあつて、およそ家庭の婦女子でこの刺繍技術を体得していない者は一人もないと言われる程であります。なかでも平和の國スイスでは天然資源の乏しい國でありますが、あらゆる悪條件を克服して加工業を盛んに興し國力を增進していますが、特に精密工業に優れている点は我が國と共通したものがあります

幸い日本婦人は先天的に視力が確かで、その上手先の仕事には非常に秀でており決して外國人におとらぬ手腕を振るつておりますのでニューヨーク。カナダ方面から註文が殺到しておりますが作業員が少いため全部まかなう事が、出来ず残念ながら外國へ流れている現状であります。加工賃が安くて…という評判が高いようですが米國やカナダの物價水準が遥かに低い為どうしても安くしなければ諸外國との太刀打が出來ないのでありますがこれを克服するには、まず技術を練磨し能率を上昇するよりほかに道はありません。クッション、枕カバー、タオル等その製品は米國人の家庭必需品で日常需要の度を増すのみで作品の販れ口は足つているし、加工賃の收入は爾来でその上外貨の獲得で國力の增進を計ることになりまず折角習得され会を始めても未だ技術が習得されず未熟なままで一カ月にもならぬ中にお止めになる方が多々ありますが誠に惜しい事で熱し易くさめやすい日本人の性癖を三百年の傳統を有し、もくもくとして発展をめざすスイスの國民性を学ばねばならないと思います。

新町政を迎え財政の確保と繁栄の基礎を確立して國家の途上に家内工業の上からも是非多数の方々の御賛同を賜り、この有意義な仕事に加つて下さることを御願致します。

一月中旬頃、金定町長と山口市の村西玉水先生をお招きし会員全部の方にお集り願つて総会をひらき種々の発展策を協議したいと考えていますので、それまでに一人でも多くの方の新加入をお待ちしております。

出來上つた
共立傳染病院

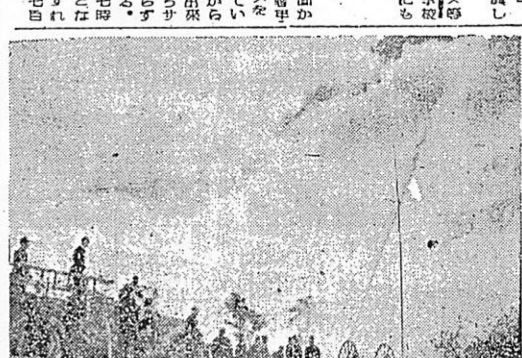
小郡町、阿知須町、東岐波村、鋳銭司村、小野村の五カ町村からなる共立小郡町傳染病院組合工事は隔離第一病院の附属として東岐波村の藤田組の手により客年八月起工して以來着々進められていたがこの程ようやく竣功し十二月十六日盛大な落成式が挙行された。この傳染病院はスマートな近代建物で病床二十四ベッドからなり、設備も万端整い、隔離者には待望のいいサンルームまで附隨しており傳染病患者も減多に発生しては困るが万一の場合でも専用車で患者をひきとり、大船に乗つた気持で保護することが出來、これで当町の衛生施設欠かんも一つだけ解消されたわけ。

なおこの総坪数は一八〇坪、総工費五百八拾八万円で各町村の負担金は次の通り

小郡町	一五五万円
阿知須町	一〇二万円
東岐波村	八五万円
鋳銭司村	五六万円
小野村	六四万円

宇部市営バスのサービス

宇部市交通課では阿知須町方面からの通勤者の便宜をはかつて昨年十二月一日より阿知須発のバスを増発し各関係者をよろこばしているが料金を更に割引し阿知須から宇部まで殊に便乗けることが出來各大口工場正門に横付けというサービスをふりまき通勤者に限らず一般多数の利用をのぞんでいる。発車時刻は阿知須停留所午前七時二十分発で八時沖之山炭鉱着となつて固り料金は定期券を使用すれば普通料金の七割引で一カ月七百五十円となる見込



多彩にわたつた
消防出初式

恒例の消防出初式は正月五日の百日午前七時鳴り響くサイレンを合図に百数十名の團員が消防服に身をかため阿知須小学校々庭に集合、多数の参観者の下に開会せられ、町長、團長挨拶に引続き山口縣消防協会長より勤続者に表状ならびに記念品等が贈られ一先ず式を終え、直ちに余興に移り鈴踊りその他多彩な行事が演じられ午後一時すぎ盛会裡に終了した。当日晴れの表彰者は左の通り。

二十年勤続	明愿　勝夫
〃	桐田　貝一
〃	坂野　典一
十五年勤続	森原　資雄
〃	竹原　祥一
功績顕著につき	西村　教逸

（写真は放水演習の一こま）

よろこびと かなしみ
（十一月中の届出）

▽出生の部

親	続柄	出生児	部落
中村　薫	二女	和江	郷地
辻下久人	長女	久美枝	岩辻
東　豊人	長男	範則	野口
四村才亮	長女	智子	西條
大田龍治	二男	一則	向井関
岡村浩英	長男	裕	岩辻
三嶋稲男	長女	千鶴子	寺河内
浜田　誠	三女	冨子	飛石
藤井健一	長男	中男	向
西村　保	二男	康男	砂三
植村正夫	長男	秀政	目北
倉田源作	長女	美江	中村
岡崎消助	長男	薫	砂二
上野元秋	二女	満美	岩上
吉浜昌良	長男	陸司	寺河内
藤本源嗣	二男	正美	小四
原川武雄	三女	敏子	岩上
原川武雄	四女	恵江	岩上
綱坂鶴市	長男	博幸	小東
辻永一夫	二男	偉	岩辻
芥川元市	四女	熊代子	引ノ
松田信人	四男	浩二	小南

△婚姻の部

夫	妻	部落
工藤清正義	森永　藤代	西
上野　正人	原田マサコ	東
中村　照男	中村シマコ	赤迫
藤本　常実	西村　文子	小西

△死亡の部

氏名	部落
伊名田弥三右衛門（87）	浜表
久保田孝博（9ケ月）	引野
松本　ムメ（85）	井関
伊藤才太郎（71）	飛石
藤田　万蔵（77）	柳前
末原　弘右衛門（71）	曽畑

〃ころげこんだ百五十万圓〃
賑あつた「歳の市」

ボーナス景気を当てこんで年間商店大張り込みの年末阿知須「歳の市」は快晴に恵まれ商店商人もここぞとばかり遠來よりかけつけてすき間のない程店を並べ、町内各商店も鳴物入りで客寄せに懸命となつて待機すれば、かみは佐山、黒川方面より、しもは東、西岐波からの買物客が、物早くからぞくぞく、つめかけたちまち賑つた。午後三・四時頃ともなれば万余の人また人でうずめ尽しミーンストリートは文字通り身動きのとれない有様で近年稀れな好景氣を示し商工業者をホクホクさせた。

阿知須商工会では恒例にならつて福引券を発行し人気を呼んだ。お客の中には百円につき一枚の福引券に魅惑され不用の品物までも買い求めたものも相当あつたらしいが一部の商店では規定通りのサービスをしないため、これ等の人々の不満の声が高かつた事は商業者とともに恥ずべきことであつた。

では今年の景気を商工会に聞いてみると、ボーナス景気もストの影響によりまだもらつていない者が多いため予想をはるかに下回つたが当日の発行額はますます上々でくじ引換数を昨年の三千八百本に比べると三割方の上昇で総売上十万円を水揚げし、外來商人の売上げなどを含せると、ザット百五六十万円の現ナマが動いた勘定になる（写真は身動きも出來ない程のラッシュアワー）

文化サークル

〝生花〟のエチケット

一般に生花といえば凡そ有閑婦女子の遊び事のようにいつて既視している感がないでもないが、それは大きな誤りで、華道こそ天地自然の理を悟り、風雅を基礎とし自己を修養し、あまつさえ人心を敎化する根本原理を会得する一つの道であります。

華道の中で代表的の池坊について少しばかりお話し致しましょう。

そもそも池坊は用明天皇の御代聖徳太子がこの道に着眼され、これを当代随一の功臣小野妹子大臣に命ぜられた。妹子大臣はやがて佛門に入り小野専務と号し今の京都六角堂の地に小庵を結び、自分の常日頃信心していた観音菩薩に朝夕献花していた。御堂の側の池に斎戒沐浴していたので「池のそばの坊さん」「池の坊」「池坊」と称えされ。やがては花の道の流派の名称ともなつて今日に及んだのであります。

その当時は立花といつて多種多様な要素を必要としいわゆる風流人の手すさみ事であつたのが家元代代の秀れたる識見と努力とによりて時代に即しい盛花ともいうべき盛花があみ出され今日行われている「真」「添」「体」の三要素により構成されるに至つたのであります

真は一家の主柱たる父を表現し添は真を扶ける母であり、体は子となり三者相扶けて一家の繁栄を図り延いては一國の隆盛をも図る意であります。このお生花はその家の象徴として家の中心たる床に飾る花とされ他面観賞に活け、手軽な器物にという点で投入盛花が顕著の一つの技法として出場を見たのであります。勿論名称こそ変え構成要素はお生花から割り出されたものであります。

また最近は会場を美しくする爲の会場芸術花として写実的な自由的な主観的な新興形軸な花が数多見られるようになりました

何はともあれ自然をモットーとした池坊にあつては多のお花としての心すべき事項は

一、水を余り多く見せないこと（主として盛花）
一、自然の理による枯木枯枝を活用すること
一、各の草木の個性を十分活かすこと

例えば山茶花を活けるときは沼地をよけて咲く習性を見て花が裏かくれにあるのを その儘まにして、強いて花を見せるべく葉を抜かないこと、また今を盛りと咲き誇る水仙はその心を真でてあるいは一定の時期までは他の根組にしないことなど自然から割り出された原理に注意したいものであります

最後に活け花上達の秘訣は絶ゆまぬ努力、謙虚的態度、草木に感謝することなどであります。

短歌・俳句・川柳の募集
毎月〆切は二十日

紙面を楽しくし、かつ同操を図かにするため係では次号より「文園」の欄を設け町民の皆様から短歌、俳句などを募集し掲載したいと思いますので揃つて「広報紙」のため御投稿下さるようお願い致します。

なお第一回分の題名は何れもとりあえず「自由題」と致します。

「虫くだし」の斡旋　〆切りは二十五日

町では新づけのシーズンに沢山はびこつて、おいしく食べたせつかくの栄養をこつそり横どりする人体の害敵「寄生虫」を退治するため、昨年服用して効果を挙げた駆虫剤（サントニン、マクニン併用と子供用にはあまいチヨコレート）を再び斡旋することになり一月十六日より二十五日の間に分譲するので希望者は現金持参、町役場衛生係へ……

なお一回分服用代金は
大人（高校生以上）　四二円
小人（六才以下）　三〇円
（註　小・中学生は各学校で配分する予定。）

この月は……町民税（第四期分）

昭和二十六年度の町民税は今月で終りです。わたしも、あなたも、今年こそは町税だけでも誰よりも先に完納して、久

編集後記

「早く芽を出せ広報よ。出さぬとハサミでチョン切るぞ!!」最近大分認められたと見えて心ある各氏より激励と、指導のことばが舞い込むようになつて編集子を喜ばしています。「広報」はみなさんのもの、あなたのものです「自由はまず知る権利から」阿知須名物十七夜祭の「ひき山」のように思う存分阿知須中を引つ張り廻わしみんなを賑しませて下さい（O生）